

平成29年(2017)に、土浦城は
続日本100名城に選定されました。

スタンプ・メモ

歴代の土浦藩主				
藩主名		在職期間	官名	石高
まつ 松	のぶ 平 信	慶長6年～慶長9年 (1601) (1604)	伊豆守	3万5千石
まつ 松	のぶ 平 信	慶長9年～元和3年 (1604) (1617)	伊豆守	4万石
にし 西	ただ お 尾 忠	元和3年～元和6年 (1617) (1620)	丹後守	2万石
にし 西	ただ お 尾 忠	元和6年～慶安2年 (1620) (1649)	丹後守	2万石
くつ 朽	きの 木 植	慶安2年～万治3年 (1649) (1660)	民部少輔	3万石
くつ 朽	きの 木 植	寛文元年～寛文9年 (1661) (1669)	伊予守	2万7千石
つち 土	かず や 屋 数	寛文9年～延宝7年 (1669) (1679)	但馬守	4万5千石
つち 土	まさ や 屋 政	延宝7年～天和2年 (1679) (1682)	相模守	4万5千石
まつ 松	のぶ 平 信	天和2年～貞享4年 (1682) (1687)	因幡守	2万2千石
つち 土	まさ や 屋 政	貞享4年～享保4年 (1687) (1719)	相模守	9万5千石
土	のぶ 屋 陳	享保4年～享保19年 (1719) (1734)	但馬守	9万5千石
土	あつ 屋 篤	享保19年～安永5年 (1734) (1776)	能登守	9万5千石
土	ひさ 屋 寿	安永5年～安永6年 (1776) (1777)	相模守	9万5千石
土	やす 屋 泰	安永6年～寛政2年 (1777) (1790)	能登守	9万5千石
土	ひで 屋 英	寛政2年～享和3年 (1790) (1803)	但馬守	9万5千石
土	ひろ 屋 寛	享和3年～文化8年 (1803) (1811)		9万5千石
土	よし 屋 彦	文化8年～天保9年 (1811) (1838)	相模守	9万5千石
土	とし 屋 寅	天保9年～慶応4年 (1838) (1868)	采女正	9万5千石
土	しげ 屋 拳	慶応4年～明治2年 (1868) (1869)	相模守	9万5千石



◇交通案内

＊常磐線土浦駅西口より徒歩 15 分
または、西口バス乗り場④・⑤番より
「亀城公園前」下車徒歩 1 分。

＊TX(つくばエクスプレス)つくば駅下車。
つくばセンターバス乗り場⑤番から
「千束町」下車徒歩 8 分。

＊常磐道土浦北 IC または
桜土浦 IC より 10 分

◇開館時間

午前 9 時から午後 4 時 30 分まで

◇休 館 日

月曜日・祝日の翌日
(ただし、翌日が土日の場合は開館)、
年末年始 (12/28 ～ 1/4)、
特別展開催にともなう展示替え期間ほか

◇入 館 料

一 般 200 円 (150 円)
高校生以下 無料

※()内は、20 人以上の団体料金
※博物館本館も入館できます。

◇お 願 い

＊館内での飲食・喫煙はできません。
＊その他、職員の指示に従ってください。

◇お問合せ

＊土浦市立博物館
〒300-0043
茨城県土浦市中央一丁目 15 番 18 号
TEL(029)824-2928
FAX(029)824-9423

＊土浦市教育委員会
文化振興課 TEL(029)826-1111
(内線 5120)

文化財を大切にしましょう
表紙写真「常州土浦城図」土浦市立博物館所蔵

茨城県指定史跡 土浦城跡および櫓門

続日本一〇〇名城選定

土浦城

土浦城は、室町時代後期ごろに若泉氏が築城したとも伝えられています。現在知られている土浦城は、江戸時代に城郭として整備されたものです。

江戸時代初期には松平氏、西尾氏、朽木氏、中期以降には譜代大名土屋氏が代々城主となりました。土屋氏のときに土浦藩領は9万5千石となり、常陸国では水戸藩について、大きな領地を支配していました。

明治時代の廃藩置県後、土浦城は新治県庁、新治郡役所として利用されました。昭和10年(1935)に亀城公園として本格的に整備され、昭和27年(1952)には「土浦城跡および櫓門」として茨城県指定史跡第1号となりました。

平成時代になり、東西の櫓や本丸土塀など、江戸時代の城郭を構成していた数々の建造物を復元整備し、土浦市における中心市街地の緑豊かな市民の憩いの場となっています。



江戸時代の土浦城 本丸・二ノ丸ほか
（「御城絵図」土浦市立博物館所蔵）
①東櫓、②西櫓、③櫓門、④霞門、
⑤二ノ丸門（現在、旧前川口門が移築されています）

東 櫓

ひがしやぐら

東櫓は譜代大名西尾氏が土浦城主であったときに建てられたと伝えられ、本丸土塁の東側に存在していました。

「櫓」は、もともとは城の防御の拠点の一つとしての物見の役割や、武器庫の役割を持った建物でした。加えて、拝領品など貴重な品々を入れておく蔵の役割を果たしたと考えられます。

東櫓は明治時代の火災で本丸館とともに失われましたが、平成10年(1998)に復元しました。

復元した東櫓は江戸時代の建築技術を継承しながら、現代工法も取り入れた建物となっており、土浦市立博物館の附属展示館として、土浦城の紹介をしています。

■構造型式 木造本瓦葺き 二階建(二層二階) 入母屋造り
1階 4間×5間=20坪
2階 3間×4間=12坪
計32坪(約110.7㎡) (1間=約1.86mで換算)



西 櫓

本丸土塁の西側にある西櫓は、昭和24年(1949)にキティ台風の被害を受け、後に復元を前提として解体されました。その後、土塁上には礎石のみが残されていましたが、平成3年(1991)に復元しました。

※内部は公開していません。

■構造型式 木造本瓦葺き 二階建(二階二層) 入母屋造り
1階 3間×4間=12坪
2階 2間×3間=6坪
計18坪(約62.3㎡)



霞 門

霞門は櫓門とともに江戸時代から残る土浦城の建造物です。藩主の変遷や城の整備を記した「土浦城記」には、貞享3年(1686)2月の項で、本丸北側の亀井郭に通じる門を「加数味之門」と表現しています。

令和4年(2022)に解体修理を行ない、東櫓に続く土塀も復元しました。

■構造型式 木造棧瓦葺き
建築形式 薬医門

櫓 門

やぐらもん

櫓門は霞門とともに土浦城に残る江戸時代の建造物です。「土浦城記」によれば、明暦2年(1656)、譜代大名朽木氏が土浦城主のときに改築されたとされます。本丸に残る櫓門としては、関東地方で唯一現存するものです。

階上の床は板張りで、その一部は揚げ蓋として開口でき、石落しとしての機能が備えられています。また、階上には太鼓が置かれ、土浦城下に時を知らせていたことから、太鼓櫓とも呼ばれていました。櫓門で使われていた太鼓は、市指定文化財「土浦城櫓門の太鼓」として、土浦城東櫓で展示しています。

これまで幾度となく修理されてきた櫓門ですが、昭和61~62年(1986~87)には解体修理と地下遺構の発掘調査も実施しました。解体修理によって、享保19年(1734)銘の祈禱棟札が発見されました。

■構造型式 木造本瓦葺き 入母屋造り
階上 11.1坪(約38.4㎡)
建築形式 櫓門



太鼓の側面には、土屋家の家紋である三石紋が描かれています。平成22年(2010)の修理で、太鼓内から墨書が確認され、明和7年(1770)に製作されたことがわかりました。(八坂神社所蔵 土浦市指定文化財)



本丸土塀

ほんまるどべい

本丸土塁上に建つ塀は、表(堀側)を塗り込めの太壁、裏(本丸側)を柱・貫のみえる真壁にして漆喰で仕上げた土塀です。塀には石落しや鉄砲狭間・大筒狭間が設置されています。これらは防御施設であるとともに、城を象徴する意匠でもありました。

土浦城を描いた最も古い絵図である「常州土浦城図」にも白壁の土塀が描かれています。また、「土浦城記」には、寛文4年(1664)に土塁上の塀を瓦葺きにしたことが記されています。明治初期には取り外され、その後再建されることはありませんでした。

本丸土塀は平成16~17年(2004~05)にかけ、櫓門から東櫓の土塁上に総延長49.3mを復元しました。本丸土塀の復元整備には、平成12~15年(2000~03)に行った発掘調査の成果が活かされました。

■構造型式 木造控柱付土塀 目板(板塀)瓦葺き
土壁下地漆喰仕上げ鉄砲・大筒狭間、石落し付き
総延長49.3m



なお、この他にも土浦城に関する建造物として、公園内には、旧前川口門があります。